

第2章 和寒町の地域特性

第1節 自然環境条件

1 位置

北海道の中央よりやや北部に位置し、旭川市から北へ36kmの距離にあります。比較的低い山岳に囲まれ、東は士別市、南は比布町、鷹栖町、旭川市に接し、西は幌加内町と接しています。また、北はペオッペ川、六線川を界して剣淵町と接しています。

【和寒町役場の位置】 北海道上川郡和寒町字西町 120 番地
東経：142 度 25 分 02 秒 北緯：44 度 01 分 15 秒

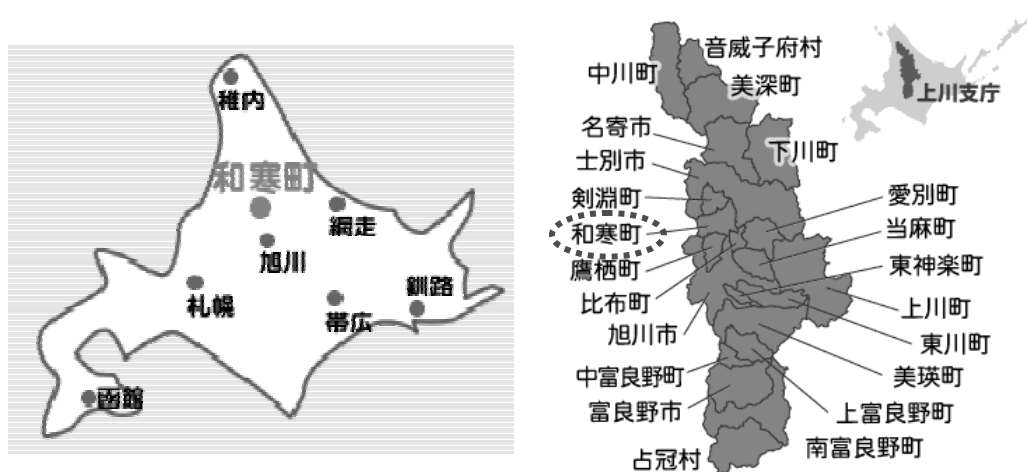


図 2-1-1 和寒町の位置

2 自然

三方を囲む比較的低い山岳として東の和寒山（740m）、西の塩狩山（533m）、白妙山（577m）、西の辺乙部山（532m）などがあり、広大な森林が広がっています。また、中央の平野部は耕地となっています。河川は、ペオッペ川、剣淵川、マタルクシュケネブチ川、シブンナイ川などが発達しています。

地質的には、北海道の背骨といわれる神居古潭帯と日高帯の境界に位置しており、本町の中央部はその中間地帯である向斜地帯に属し、それぞれの特徴を示しています。土壌的には、剣淵川流域の低地には粘土、砂礫、中央部から西側は泥炭が発達しています。この泥炭は過去10万年以上の環境を示す記録として、北海道の中でも特に重要なものです。

（資料）第4次和寒町総合計画

3 面積

面積は224.83平方キロメートルあり、その約65%が森林のうち約54%を国有林が占めています。上川管内（4市16町2村）の面積割合を見ると約2%が和寒町となります。

表 2-1-1 地目別土地利用面積

	面積(km ²)	比率(%)
田	27.69	12.3
畑	19.90	8.9
宅地	2.64	1.2
池沼	0.01	0.0
山林	153.59	68.3
牧場	2.54	1.1
原野	7.64	3.4
雑種地	2.24	1.0
その他	8.58	3.8
総面積	224.83	

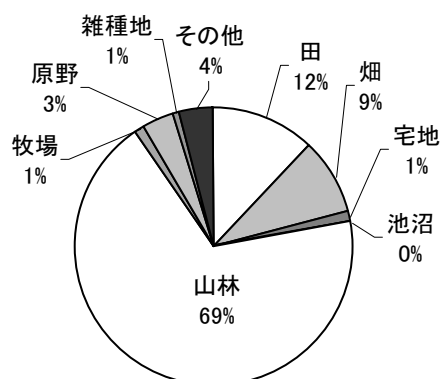


図 2-1-2 地目別土地利用面積比率

平成 21 年 1 月 1 日現在

4 気象

和寒町は比較的低い山岳に囲まれた丘陵地と中央部の平坦地からなる地帯で、盆地特有の気候を示します。夏と冬の温度差が大きく、特に冬は道内の他の地域と比べると気温が低く、降雪量も多くなっています。平均風速は年間を通して低くなっています。

表 2-1-2 は、和寒町の平均気象条件（平均気温、最高気温、最低気温、降水量、日照時間、平均風速、積雪量、積算寒度、積算温度）を一覧にしたものです。

図 2-1-3～図 2-1-8 では、和寒町の気象条件を道内主要都市と比較しています。

表 2-1-2 和寒町の平均気象条件

月	平均気温 [°C]	最高気温 [°C]	最低気温 [°C]	降水量 [mm]	日照時間 [時]	平均風速 [m/s]	積算寒度 [°C日]	積算温度 [°C日]	降雪の深さ 合計[cm]
1月	-8.8	-4.9	-14.1	78.6	48.6	1.3	-269.9	0	206
2月	-8.5	-3.8	-14.6	49.6	90.6	1.3	-246.4	0	147
3月	-3.4	0.9	-8.6	66.2	129.3	1.6	-103.7	1	156
4月	4.3	8.9	-0.5	61.4	153.1	1.9	0.0	127.0	41
5月	10.9	16.5	5.1	60.3	169.6	2.0	0	337.0	0
6月	15.7	21.4	10.4	59.5	159.4	1.6	0	471.3	0
7月	19.7	25.0	15.0	98.5	147.6	1.5	0	607.0	0
8月	20.5	25.5	16.1	121.7	147.8	1.4	0	631.8	0
9月	15.1	20.3	10.5	143.7	133.5	1.4	0	454.5	0
10月	8.6	13.4	4.1	131.1	105.3	1.7	0	264.0	1
11月	1.5	4.7	-1.9	139.7	52.3	1.7	-7.8	54.1	124
12月	-4.6	-1.6	-8.4	105.7	36.4	1.5	-141.3	0.0	238
期間平均	6.0	10.5	1.1	93.0	114.5	1.6	-	-	76.1
期間最大	20.5	25.5	16.1	143.7	169.6	2.0	0.0	631.8	238.0
期間最小	-8.8	-4.9	-14.6	49.6	36.4	1.3	-269.9	0.0	0.0
合計	71.0	126.3	13.1	1,116.0	1,373.5	18.9	-769.1	2,947.2	913.0

統計期間：日照時間は1987～2000年、降雪の深さは1982～2000年、それ以外は1979～2000年

(資料)気象庁

- 1) 積算寒度:1 日の平均気温がマイナスとなった日の温度を合計した数字。雪氷熱エネルギーの利用条件は、年間で積算寒度が-200°C日以下になるといわれている。
- 2) 積算温度:1 日の平均気温がプラスとなった日の温度を合計した数値。雪氷の貯蔵ロスや雪氷貯蔵における断熱の必要性の指標になる。

月別平均気温は図 2-1-3 の通りで、最低は 1 月 -8.8℃、最高は 8 月 20.5℃、年平均は 6.0℃です。冬期の 11~3 月は道内主要都市と比べると低温で、夏期の 5~8 月は道内の平均的な気温となっています。

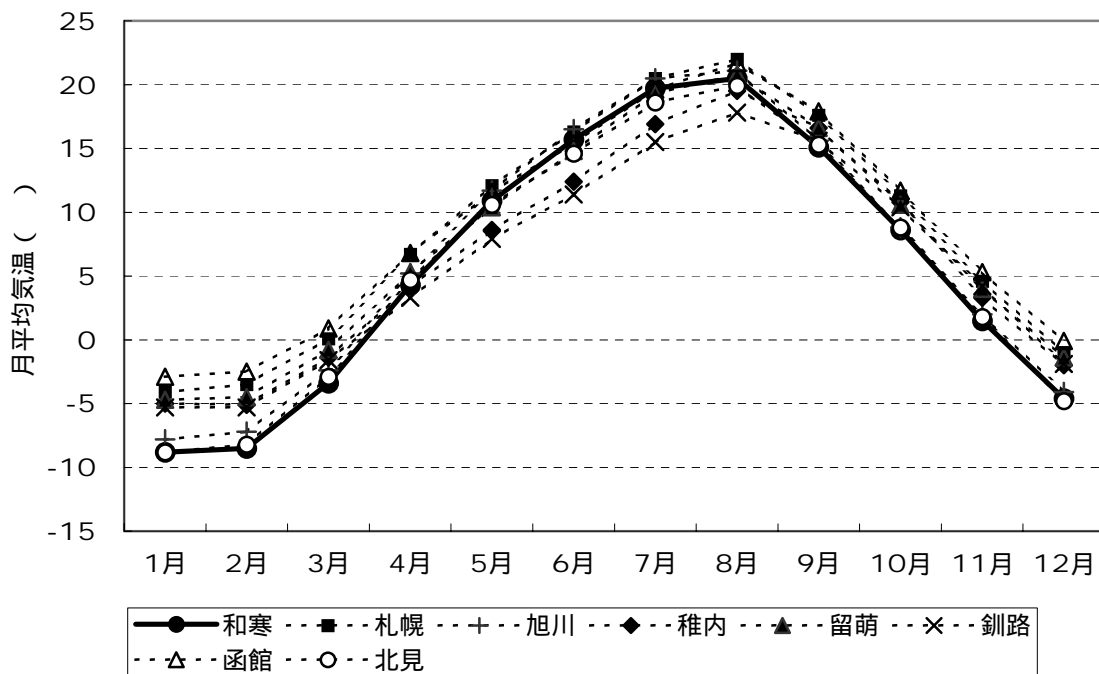


図 2-1-3 道内主要都市との平均気温比較
(資料)アメダス气象台・測候所(1979~2000年)

年間降水量は 1,116mm で、道内主要都市との比較では平均的な降水量です。

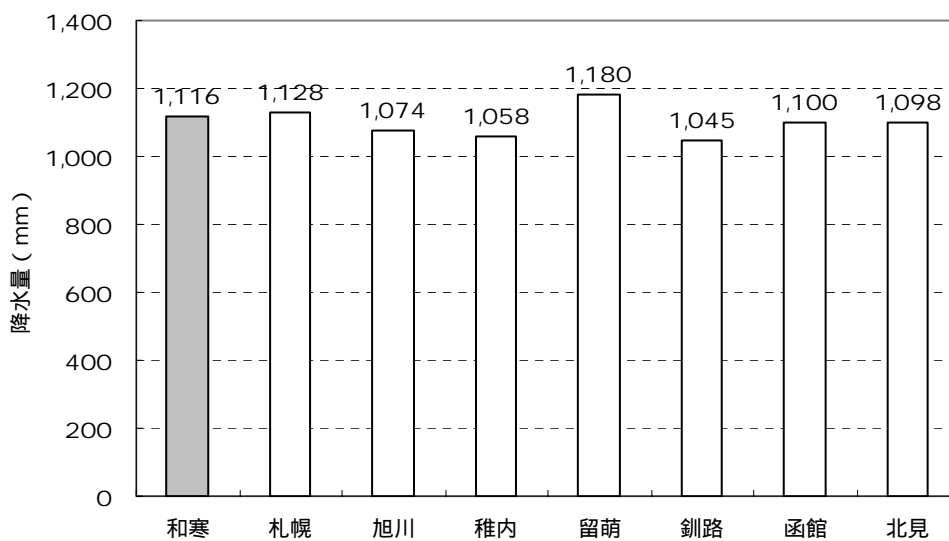


図 2-1-4 道内主要都市との降水量比較
(資料)アメダス气象台・測候所(1979~2000年)

年間日照時間は1,374時間で、道内主要都市と比較するとやや低い値になっています。

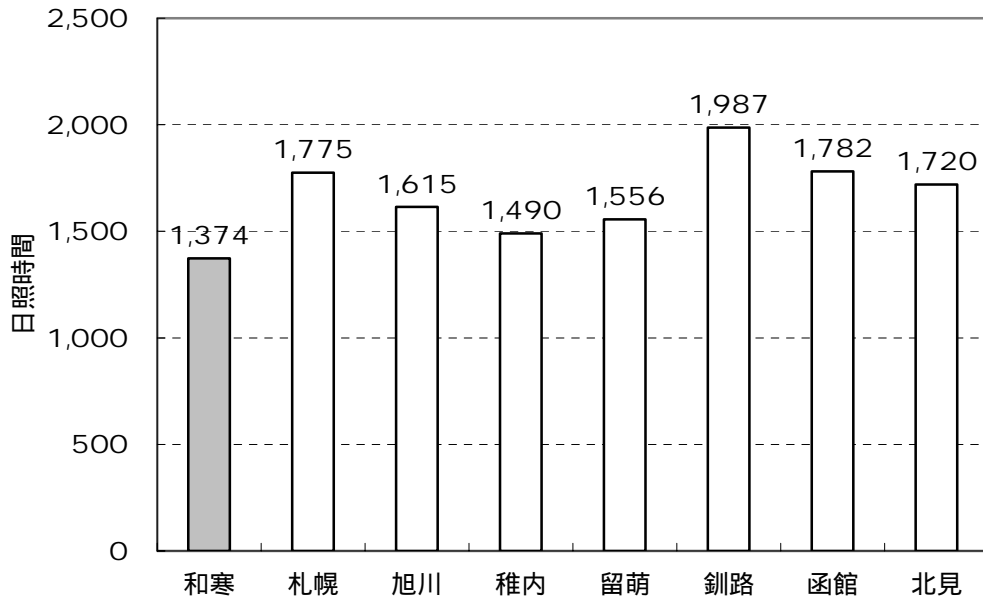


図 2-1-5 道内主要都市との日照時間比較

(資料)アメダス气象台・測候所(1979~2000年)

年間平均風速は1.6m/sであり、道内主要都市と比較すると年間を通して低い値になっています。

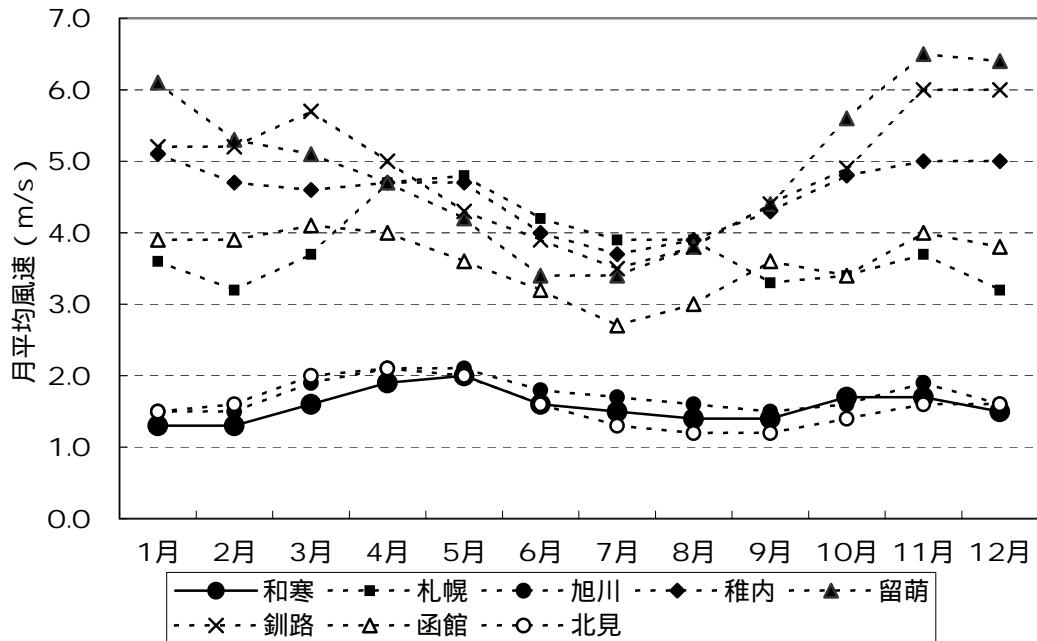


図 2-1-6 道内主要都市との平均風速比較

(資料)アメダス气象台・測候所(1979~2000年)

和寒町では10月下旬から11月初旬には降雪が観測され始め、翌4月まで続きます。年間の降雪深さの合計は913cmで、道内主要都市と比較すると降雪量が多い地域となっています。

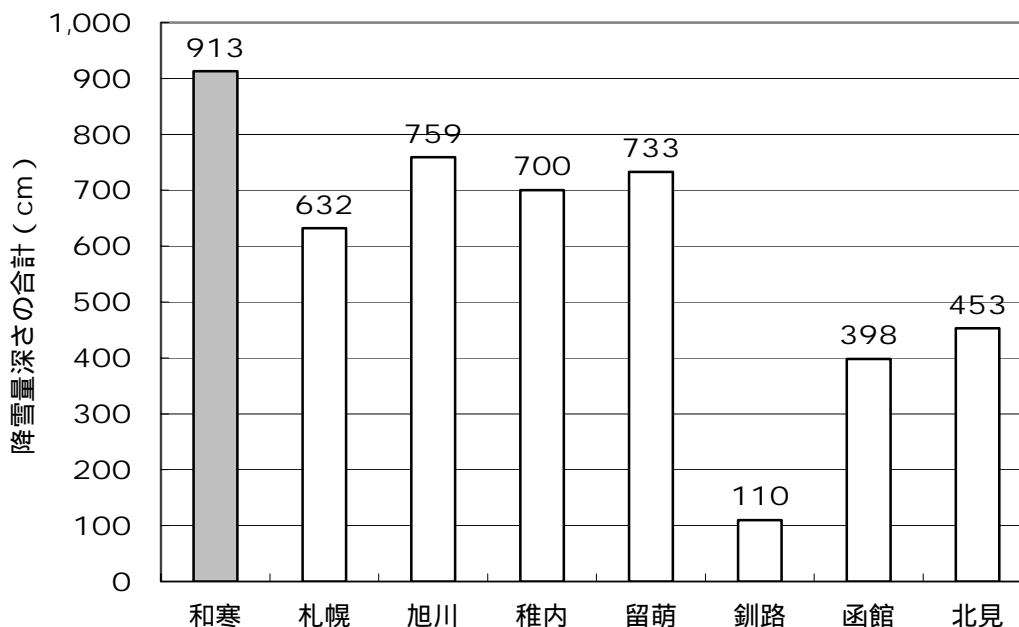


図 2-1-7 道内主要都市との積雪量比較

(資料)アメダス气象台・測候所(1979~2000年)

積算寒度は-769℃日で、道内主要都市と比較すると低くなっています。

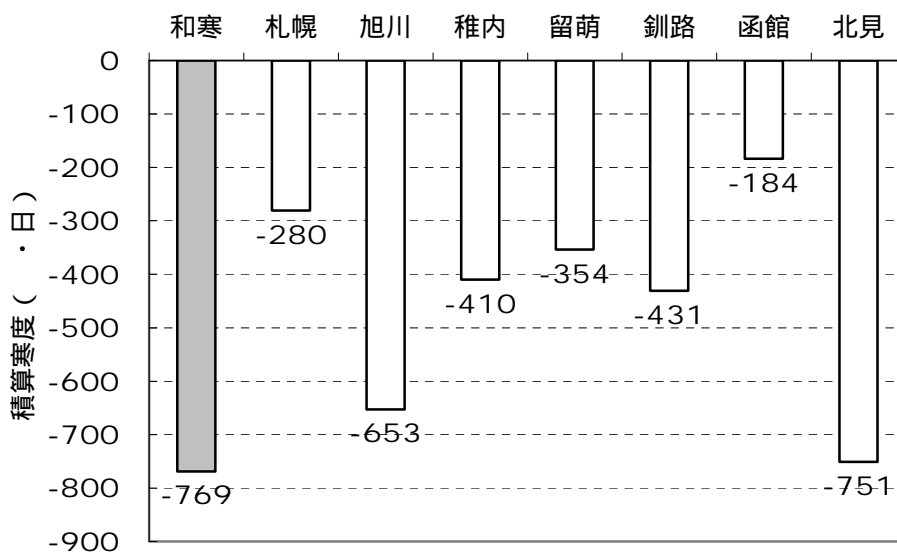


図 2-1-8 道内主要都市との積算寒度比較

(資料)アメダス气象台・測候所(1979~2000年)

第2節 社会経済条件

1 人口と世帯数

和寒町の人口は、平成20年度末の調べによると4,040人（男：1,874人、女：2,166人）で、昭和40年の9,761人と比べるとその約41%にまで減少しています。しかし、世帯数で比較すると、昭和40年の2,025世帯に対し、現在1,767世帯となっており、約87%にとどまっています。このことは、核家族化の進行を意味し、少子高齢化が進むなかで高齢者のみの世帯または単身高齢者の増加が懸念されます。

年齢別にみると、14歳以下の年少人口率が10%、15歳～64歳の生産年齢人口率が52%、65歳以上の老年人口率が38%となっています。年少人口率は北海道平均12.3%、全国平均13.4%から下回り、老年人口率は北海道平均23.2%、全国平均22.3%を大きく上回っています。

●総人口：4,040人（男：1,874人、女：2,166人）

●世帯数：1,767戸

（資料）和寒町住民基本台帳 平成21年3月31日現在

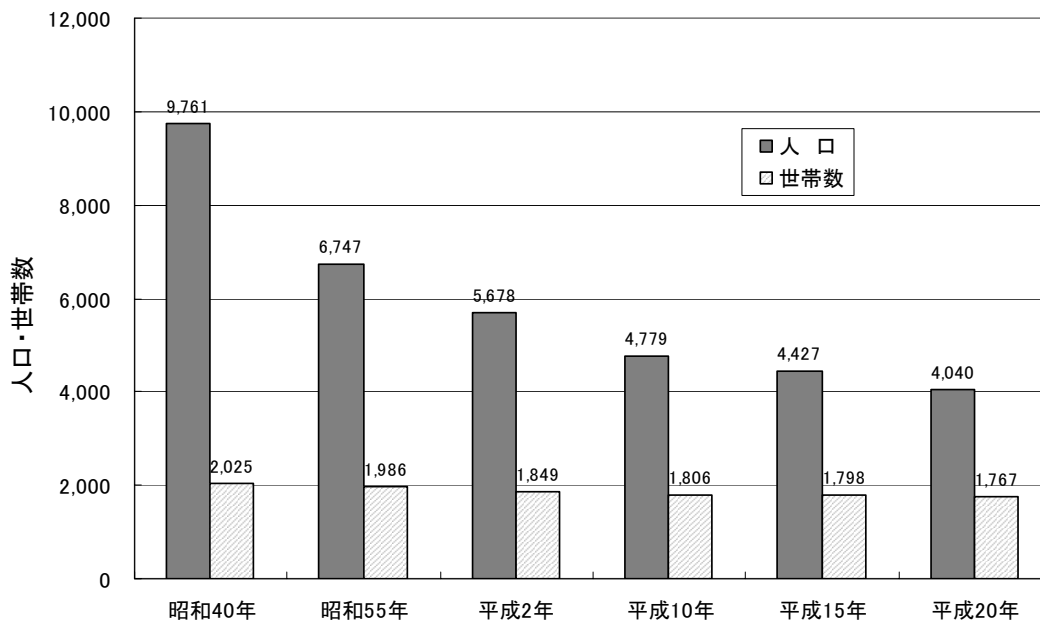


図 2-2-1 和寒町の人口と世帯数の推移

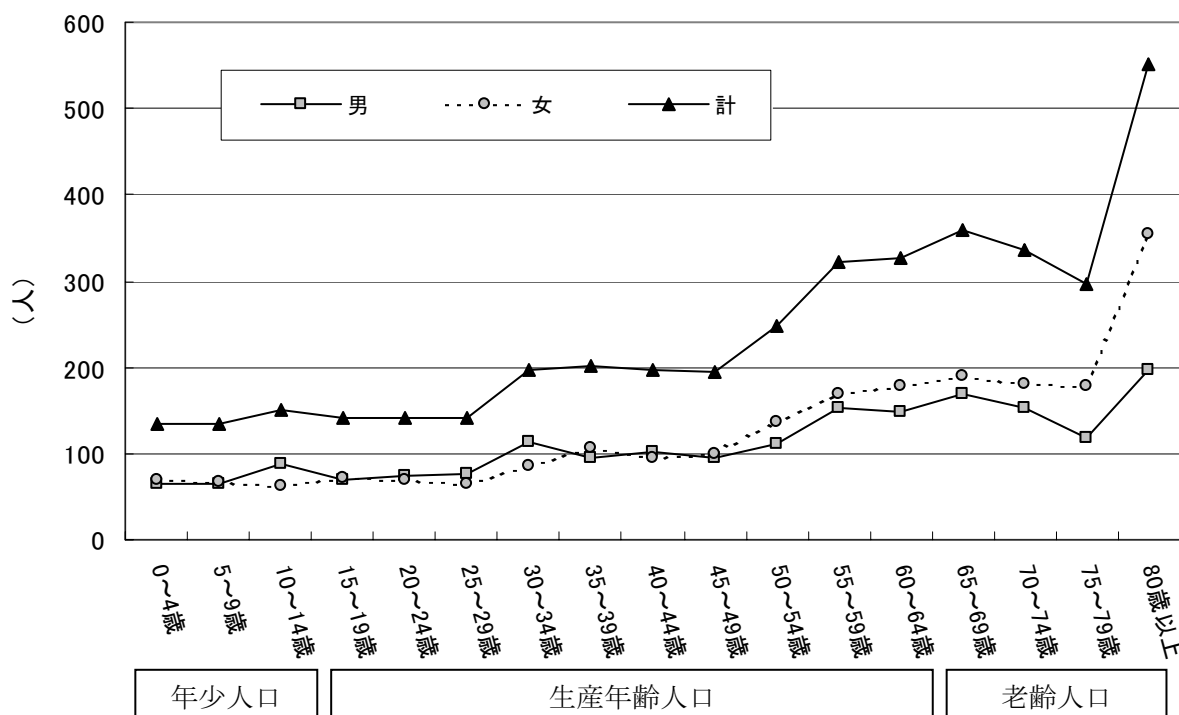


図 2-2-2 和寒町の5歳階級別男女人口(平成21年3月31日現在)

(資料) 和寒町住民基本台帳

2 産業・経済

和寒町の産業別15歳以上就業者数は人口全体の55.6%であり、そのうち39%が第1次産業、15%が第2次産業、46%が第3次産業という形態になっています。

恵まれた自然環境を生かした農業においては、水稻のほか、代表的なものとして「越冬キャベツ」や日本一の作付面積を誇るかぼちゃがあげられます。「越冬キャベツ」は、豊富な雪資源を活用し、雪がキャベツの山に降り積もって、天然の冷蔵庫になり新鮮な状態で保存され、冬期間に出荷するものです。昭和47年より冬キャベツの国の産地指定を受けており、出荷時期にはテレビなどでも放映されています。

また、和寒町農業委員会(担い手推進協議会)では、定住促進対策の一環として農村生活体験実習を行っています。平成2年から始まり、現在までに74名の方が体験し、平成21年6月現在で11名の方が引き続き和寒町に在住しています。

さらに、農業振興関係施設として、農業活性化センター「農村塾」、農産物加工センター、パーク供給センター、南宗谷線地区米穀類乾燥調製貯蔵施設があり、農業の活性化に務めています。

その他、地場資源を活用した特産物として木製品(割箸、折箱、民・工芸品)があります。

就業者数 2,243人(人口比55.6%)

第1次産業 872人(39%)

第2次産業 338人(15%)

第3次産業 1,033人(46%)

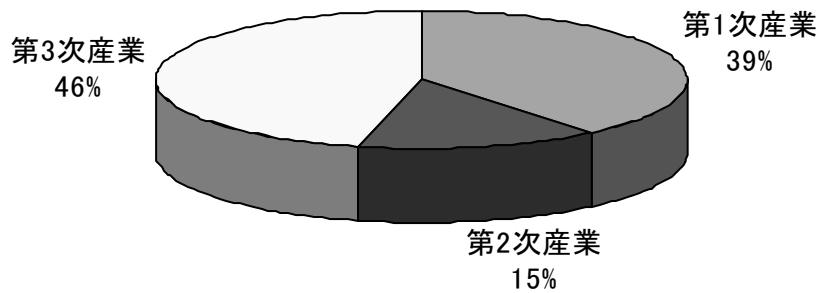


図 2-2-3 産業別就業人口構成比
(資料)平成 17 年国勢調査

農業生産額 3,330 百万円 農業人口 1,560 人 (平成 20 年)

主要農産物	作物	[作付面積]	[収穫量]
水稻	水稻	1,096 ha	6,550 t
小麦	小麦	249 ha	940 t
芋	芋	57 ha	1,892 t
大豆	大豆	323 ha	817 t
小豆	小豆	77 ha	177 t
南瓜	南瓜	750 ha	9,041 t
甜菜	甜菜	118 ha	7,880 t
キャベツ	キャベツ	95 ha	4,697 t

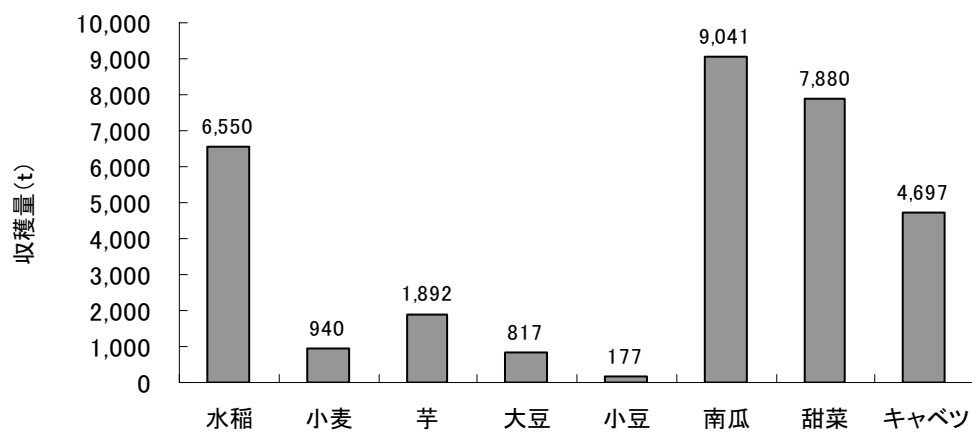


図 2-2-4 主要農産物収穫量(平成 20 年)

3 観光

和寒町では、町の活性化プロジェクトとして、観光開発にも力を入れており、年間の観光客数は、三笠山で約 11,000 人、南丘森林公園で約 10,000 人、東山スキー場で約 107,000 人、塩狩峠記念館で約 5,000 人です。

「三笠山自然公園」は遊園地やサーキット場、パークゴルフ場、キャンプ場が集まる緑に囲まれた公園です。公園内にある「こどもの国」にはゴーカート、ハイスクリュータワー、豆汽車、スカイダンボ、フアフアくまさん、バッテリーカーなどの遊具があり、低料金で一日中楽しむことができます。春は満開のエゾヤマザクラがライトアップされる「夜桜祭り」が催されます。町花であるカタクリも、4月下旬から5月上旬に濃紫色の花を咲かせます。夏は公園内にあるサーキット場で全日本・全道モトクロス選手権やトライアル選手権が開かれます。「どんとこい！わっさむ夏まつり」も毎年恒例となっています。冬は全日本スノーモビル選手権が行われるなど、一年を通して盛りだくさんのイベントがあります。

その他、昭和 63 年の環境庁の巨木調査で全道 2 位、全国 6 位となった「ミズナラの巨木」や、「夫婦岩」、桜の名所として知られる塩狩峠の「一目千本桜」などの観光スポットがあります。

さらに、スポーツの町としてスポーツ活動を通じた観光開発にも力を入れており、和寒町が産んだ「全日本玉入れ選手権」は、誰もが参加できる競技であることから、平成 12 年には（財）地域活性化センター「ふれあいのさとイベント祭り大賞・スポーツ部門賞」を受賞し、全日本の名に恥じない代表する地域イベントスポーツとして全国へ発信しております。

4 文化・教育

学校（平成 21 年 5 月 1 日現在）

保育所	2ヶ所	87人	・	小学校	1校	175人
中学校	1校	86人	・	高校	1校	8人

教育文化関係施設

公民館「恵み野ホール」	・	片栗庵
北原交流展示館	・	郷土資料館
和寒町総合体育館	・	研修館「楡」
東山スキー場	・	パークゴルフ場
和寒町営球場	・	B & G 海洋センター
町立図書館	・	保養センター
交流施設「ひだまり」	・	塩狩峠記念館

5 保健・医療・福祉

医療福祉関係施設

保健福祉センター

町立和寒病院
三笠児童館

公営住宅

公営住宅	372 戸
単身者向賃貸住宅	52 戸
特定公共賃貸住宅	8 戸

第3節 歴史文化的背景

1 歴史

和寒町は昔、町の中央部を流れる六線川周辺にニレの木が繁茂していたため、アイヌ語の「ワットサム」（ニレの木の傍ら）から地名がついたとされています。「輪寒」あるいは「和参」とも書かれていました。

明治30年（1897年）に入植した剣淵屯田に始まり、時の北海道開拓政策に呼応した本州各地からの団体移住の先人達によって開拓が進められてきました。明治32年（1899年）11月には、旭川～和寒間の鉄道が開通したことによって交通の要所として急速に発展しました。

また、ペオッペ原野に砂金・砂白金が発見されたり、地場資源を活用する木材工業、穀物相場の高騰によって盛況をみた雑穀商、除虫菊の需要の高まりによって田畑の造成などを通して発展し、大正4年（1915年）に剣淵村から分かれて和寒村として独立しました。昭和27年（1952年）に町制施行され現在に至っており、平成11年には「わっさむ100年」を迎え、全町を上げて記念する年を祝いました。

（資料）第四次和寒町総合計画

2 文化財

<ペオッペ駅通所跡>

和寒から幌加内を結ぶ車馬車道として活況を呈していた当時の剣淵村ペオッペ14線に、官設駅通所が開設されたのは明治42年のことです。その後廃止となる昭和3年まで、ペオッペ駅通所は交通の要衝としてだけでなく、人々の交流にも大きな役割を果たしました。そんな当時の生活文化の息吹を伝える場所として、ペオッペ駅通所を保存しています。

<神楽面>

明治38年に広島団体として入植した人々が、故郷で習い覚えた神代神楽を舞う面として使用していたものと考えられています。神楽舞は、昭和初期まで中和地域でおこなわれていましたが、神楽団の解散にともない昭和19年に神楽面を和寒神社へ奉納されました。現在も残る神楽面は張子の面で、広島団体が当時取り寄せたものであれば、製作されたのは100年も前ということになります。

<分村記念松>

大正4年4月1日に剣淵村から分村した和寒村は、大正5年に役場庁舎を新築しました。翌年には、役場庁舎裏に村長公宅を建設し、その入口に2本の松を植樹しました。村長公宅は、昭和22年の民選村長の就任によりその役割を終えましたが、2本の松はそのまま残され80年以上の時を経た今も、当時を偲ぶ記念樹として親しまれ、地域の発展を見守り続けています。

<巨木 ミズナラ>

昭和63年の環境庁の巨木調査で 全道2位、全国6位となった自然木は、神秘的な雰囲気さえただよわせながら威風堂々とした力強い姿で悠久のときを経た今も、静かにこの地を見守り続けています。